

Radixの会総会1部講演録

『Radixの会はどこまで来たか』

Radix

モデルとしてセットボックスを丸ごと料理しようという料理教室をやったり、赤ちゃんの子育てのことをやったりして、関東圏だけでも月に50本やっています。ということ、50本だから年間にすると600本。小さなエリアですので、10名とか15名の小さな活動でやっています。

〔Radicleの会〕

忘れてならないのは、らでいっしゅの自慢は生産者・メーカーの皆さんなのですが、もう1つの自慢は配送スタッフの方々。約200名近い配送スタッフが常々、皆さんの品物を会員さんまで届けてコミュニケーションをして帰ってくるということです。

Radicleの会ということで、らでいっしゅぼーや代理店、配送スタッフの皆さんの組織です。面白い企画だなどということ、今度は生産者が自ら自分のところで採れたトマトを持って一緒に届けようと、年一回ということもやってコミュニケーションをしていこうということも、今関西から広がってきております。

■3つの大きな試練

半歩先に行って、交流をやって、ということ、わかりやすい構造を作って伸びてきたらでいっしゅぼーやですが、3つの大きな試練が待ち構えていました。

この3つの試練は、皆さんとの信頼

関係がないと乗り越えられなかったことです。これらによって、らでいっしゅぼーやも10年間の垢が取れたというか、すごく甘えていたところもあったなとか、学んだように思います。この10年間はそれほどいろいろなことがあったな、ということでもありました。これは多分皆さんもそうかと思えます。振り返ればそれが自信から確信になったということです。

〔米パニック〕

まずは忘れもしない93年米パニック。確か7月、8月に作況が90から80になり、最後には74とか72まで下がった。注文制がメインだったらでいっしゅぼーやでは、一挙に注文数が3倍まで広がりました。

らでいっしゅぼーやはセットボックスとともにファンクラブです。そこで現在は全国のいろんなお米を北海道から九州まで食べようというように、お米クラブのファンクラブをしておりますが、拡大のきっかけがこの年だったのです。お米パニックを契機に、欲しい時だけ買うという関係ではなくて、1年間安定的に付き合ってくれということで、全国一律の価格で「お米倶楽部」に取り組み、一挙に2倍から3倍に伸びたというような形です。お米倶楽部で神奈川センターができたという話もあるぐらい広がりました。

今後はもう1度お米は伸ばそうと思っています。らでいっしゅぼーやには無農薬米が3分の1近くあるのですが、これを技術的に、民間稲作研究所の稲葉先生はじめ数年のうちにみんな無農薬にしたいなという思いがあります。これは、まず目標を持った上でやれば、今はあと除草剤の問題を解決すれば、らでいっしゅはすべて無農薬の物になるということにすれば、もう1回あそこに山が来て、「らでいっしゅぼーや」の田んぼの面積が増えるかなというような教訓の中から次の可能性を感じています。

〔阪神大震災〕

95年の1月17日、阪神大震災。本当にこれはびっくりしました。大阪センターもストップして、我々もどうなっているのかと、それで会員の安否を気遣い、みんなであの2トントラックで十何時間かかったでしょうか、一睡もせず駆けつけました。ただ裸で行くわけにいけないので、今でも覚えています、ロジャースに行ってマウンテンバイクを全部買って、あとはラジオを買って、防寒具を買って、もしかしたら山賊もいるのじゃないかということでサバイバルキットも買って駆けつけた覚えがあります。

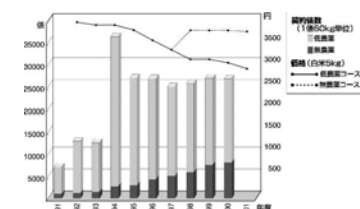
生産者・メーカーも駆けつけてくれました。会員さんはこういう中で改めて配送員を通してらでいっしゅ

Radicleの会
らでいっしゅぼーや(株) 配送スタッフ互助会



顔の見える関係

米パニック (お米倶楽部)



「阪神大震災」

被災会員の調査と緊急物資送付を続けています。

